

未来をつくる、飛島の今。

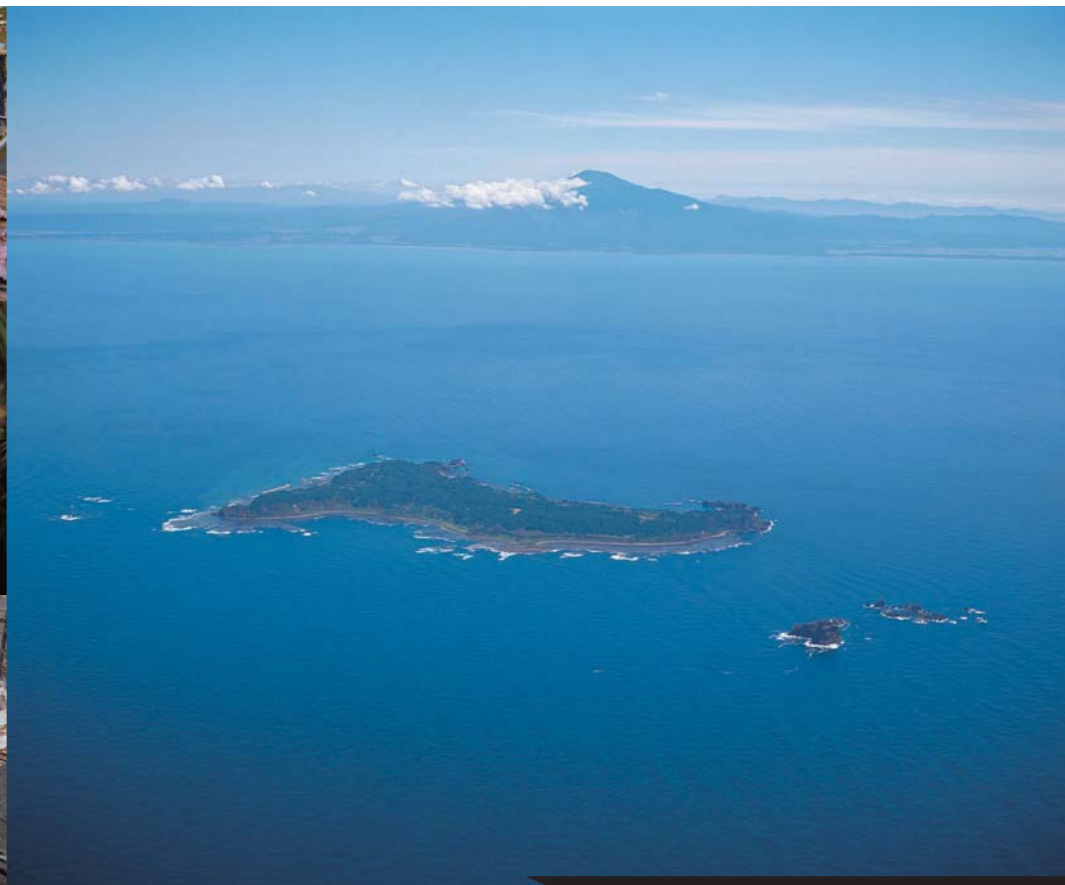
**島が抱える課題の解決に
地域のNPO、大学が
立ち上がった10年**

目の前には青々とした日本海と、水上に浮かび上がる鳥海山。空にはウミネコが舞い、地上にはスルメイカやトビウオが天日干しにされている。飛島には海水浴を楽しむ家族連れのほか、釣りやバードウォッチングに訪れる人も多く、豊かな自然とゆつたりとした島時間が多くの旅人を魅了してきた。しかし実際に住むとなると楽しいことばかりではない。基幹産業の漁業は収入が不安定で、常駐の医師もいない。島を離れる人も多く、ピーク時の昭和15年には1788人だった人口が、今では241人(※)。島民の平均年齢は68歳で少子高齢化が進んでいる。東北公益文科大学が開学した平成13年、呉尚浩教授は夏の合宿で初めて飛島を訪れた。そして島の自然や島民の暮らしの豊かさに感動したのと同時に、海岸に堆積する膨大な漂着ごみと、過疎高齢化の厳しい現実が直面した。「漂着ごみは私たちの生活が生み出したもの。自分たちの手で何とかしたい」という気持ちが湧いてきました。

折しも同年、県と市が主催し、飛島の漂着ごみを回収する「飛島クリーンアップ作戦」が始まった。2年目からはNPO、大学、行政、海上保安部などによる実行委員会形式となり、NPO法人パートナーシップオフィスなどが事務局となつて、毎年多くの参加者が渡島し、開催されている。こうして新たな訪問者を迎えたことで、島に変化が現れ始めた。

**関係者が一堂に会する
「とびしま未来協議会」。
島に未来を語る場が誕生した**

飛島では近年、直面する困難な島の課題についての積極的な話し合いは盛んではなかった。「飛島は少子高齢化が進んでいる。このままだと10年後は大変なことになる」。飛島在住の佐藤勝一さんは、地元で恩返しをしたいと出稼ぎ漁を終え帰郷。島の現実を見つめ、新規移住者の積極的な受け入れを提案する。「昔の飛島では移住者が歓迎されなかった。みんなが漁師だった頃は、人数が増えたと分け前が減ったから。でも今後は、若い人や定年者などの移住者が増えてくれたら嬉しい。島民が気づかない島の魅力を外に発信してく



Supported by 庄内広域行政組合

酒田港から定期船に揺られて1時間15分。
日本海の只中に、山形県で唯一の離島、飛島があります。
この島では今、島民とNPO、大学、行政などがひとつになって、
活気ある未来をつくる取り組みが次々と生み出されています。



“外からの視点”が見つけた
島の、希望ある未来。

飛島コミュニティ振興会会長
佐藤勝一さん
Sato Katsuichi
中学卒業で漁師になり、北洋サケマス漁の漁撈長として30年間以上活躍した。「自分が初めて漁撈長になった時、飛島の人たちに助けてもらった。今は自分の仕事を犠牲にしても島に恩を返したい」。



東北公益文科大学 教授
呉尚浩さん
Go Naohiro
平成13年より、飛島の地域づくりに関わる。「昨年は10年に一度の『離島振興計画』策定の年。未来協議会が中心になって、島民の案をまとめました。そこで出たアイデアを今後の島づくりにいかしていきたいと思っています」。



※2013年6月現在

れるのが夢」。

こうして多様な視点から島の未来を考える場として、平成23年、県と市のバックアップを受け、「とびしま未来協議会」が発足した。会長を佐藤さん、事務局長を呉教授が務め、メンバーには、各区長、組長、漁業代表、公益大、NPOや市民団体など、飛島に関わるキーマンが揃う。協議会の様子をのぞかせてもらったが、あらゆる意見が飛び交い、参画の場といった雰囲気だ。「いろんな立場の人がいて、いろんな視点があること自体が協議会の強み。意見がまとまらなかったとしてもそれはそれで良くて、ゆるやかな連携が持続していくことが大切なんです」と語るのは、とびしま漁村文化研究会の岸本誠司さん。発足した2年前、発言者はずかだったが、昨年の後半あたりから意見交換が活発になってきたという。どうやら島の未来を自分たちでどうにかしたいという気持ちの高まりが反映されているようだ。

新しい息吹を吹き込む、それぞれの強みを生かした若者たちのチャレンジ

そして今、飛島の玄関口には、うな文化の拠点にしたい。失われつつある飛島の文化を、今のうちに保存したいと思っています。まさに今が頑張り時。若手も同じ意識で踏ん張っている。

日本海の孤島から、本土や離島同士をつなぐ公益、交流の島へ

飛島は酒田市の一部であるものの、庄内や山形県内から訪れる人はまだ少ない。「お客さん呼び込むために、カフェでいろんなイベントを企画しています。夜光虫鑑賞ツアーや野外ライブ、おばあちゃんから島の食べ物のお話を聞く会など。イベントを通して、外の人と島の人が活発に交わる場にしていきたい」。また、平成19年から始まった、新潟県の佐渡島、粟

島の新たな未来が開かれた。港の定期船発着所前で営業するカフェスペース「しまかへ」。協議会の取り組みの一つとして、島民の気軽な交流の場としてスタートしたが、2年目となる今年には名前を「しまCafe」から「しまかへ」と改め、島出身の渡部陽子さんがお店を切り盛りしている。「公益大の呉ゼミ合宿に参加して、住んでいた時には気づかなかった飛島の魅力に出会いました。島では食堂やお土産店もなくなりつつあり、島民からは気軽に寄れるスペースが欲しいという意見がありました。それが、私個人のカフェを経営したいという夢と合致して、「しまかへ」を開こうと戻ってきました。島では今、緑のふるさと協力隊を受け入れたり、Uターン者も増えたりして、今が頑張り時だと思っています」。昨年、緑のふるさと協力隊1期生として飛島に着任した松本友哉さんは、デザインの技能をいかし、任期終了後の今年も島に残って「飛島ブランド確立支援事業」を担当している。「若い人たちで『飛島ロマン』というネットワークをつくりました。今後は、空き家になっていた民宿を利用して、島の資料や映像が見られるよ

島との三島交流会といった離島同士の交流も進んでいる。さらに最近では、沖繩の伊是名島との交流も生まれた。今後はお互いの島の特産品を紹介する店企画も持ち上がっており、伊是名産の米粉麺のレシピ作りを、アル・ケッチャーノの奥田シェフに依頼。打ち合わせのために庄内を訪れた伊是名島のNPO法人「島の風」理事長、納戸義彦さんは「飛島産のイカの塩辛に魅力を感じる。米粉麺にからめて、ペペロンチーノみたいなメニューを提供したい」と意欲的だ。呉教授は「ここまで来るのに13年かかりました。ようやく、描いた未来図が実現してきています」と語る。その眼差しの中には、雄大なビジョンが広がっている。

「飛島が好き」真つすぐな想いで挑戦しつづける若者たち。

島の映画資料館
小川ひかりさん
Ogawa Hikari
東北芸術工科大学に在学中から島に通いつめ、現在は島で働く。

合同会社とびしま
本間当さん
Honma Ataru
勝浦地区にある「おぼこ旅館」の次男。震災を機に1年前、仙台から帰郷。



NPO法人
パートナーシップオフィス
松本友哉さん
Matsumoto Tomoya
しまかへのロゴや看板、島のお土産品のパッケージデザインなどを手がける。



緑のふるさと協力隊
神庭友人さん
Kanba Yuto
二期生として今年4月に着任。島の訪問客を特技の和太鼓で出迎えることも。



とびしま漁村文化研究会
岸本誠司さん
Kishimoto Seiji
公益大で非常勤講師も務める民俗学者。「飛島の人たちは生粋の漁民。日本に残る多様な暮らし方の中で、里とは一線を画す価値観や社会性に魅力を感じる。」



ランチプレートは2~3種類。ごともカレーやイカの Pasta が楽しめる。

よしずの屋根の下に数組のテーブルセットが並ぶ「しまかへ」。オープンな雰囲気、気軽に立ち寄りやすい。目の前には日本海が広がり、爽やかな風が吹き抜ける。



年に数回開かれる「とびしま未来協議会」には島の若手も参加する。

毎年5月に行われる「飛島クリーンアップ作戦」では、島民とボランティアが一日かりで海岸沿いのごみを拾う。平成13年にスタートし、今では80名の募集枠が即日埋まってしまう人気の行事。



アル・ケッチャーノで開かれた、伊是名島の納戸義彦さんの食事会。「100人の人に来てもらうより、1人に100回来てもらえる島を目指す」という納戸さん主宰のNPO島の風は、昨年度「地域再生大賞」を受賞。



新潟県の佐渡島、粟島との三島交流会。飛島での「緑のふるさと協力隊」の受け入れは、この会での情報交換がきっかけで始まった。

取材・文＝松本典子
編集・撮影＝Cradle編集部
協力＝酒田市総務課とびしま総合センター
写真提供＝NPO法人パートナーシップオフィス、岸本誠司さん、松本友哉さん

Infomation 飛島の魅力を発掘！ この夏は飛島に遊びに行こう！



定期船とびしま

酒田⇄飛島 航海時間75分
大人:片道2040円(往復4080円)
小人(小学生):片道1020円(往復2040円)
小児(1~6歳):1020円
※大人1人付き添いにつき1人無料
乳児無料
※運航スケジュールなど詳細は下記へ
<http://www.sakata-kankou.com/course/tobishima/ship>
酒田市定期航路事業所
☎0234-22-3911

しまかへ

島でしか食べられないメニューを提供。とび魚の焼き干しなどの特産品やオリジナルグッズも販売。島の見どころ紹介や、「飛島不思議探検」、「出張しまかへ」などのイベントも企画。
☎ 4月27日~9月30日(不定休)
10:00~20:00
休憩 14:00~17:00(1航海時)
16:00~18:00(2航海時)
☎ ☎090-4310-5085
<http://shimacafe.com/>

飛島や

「天保そば」と「とび魚だしそばつゆ」のセット
飛島のおみやげといえどこれ!
取扱店 しまかへ、夢の倶楽、大泉みなと市場店ほか
☎ 特別価格1500円

